

【 101 】

氏名 齋 藤 勝 剛

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1424 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和58年12月31日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）

学 位 論 文 題 目 気管支喘息に関する臨床的研究

第1編：気管支喘息における喀痰中の好塩基球について

第2編：気管支喘息における皮膚および気管支の遅発型反応について

論 文 審 査 委 員 教授 太田善介 教授 長島秀夫 教授 栗井通泰

学位論文内容の要旨

気管支喘息発作に対する末梢血好塩基球の動態は木村らによる詳細な検討が行われてきた。また、石坂らにより IgE が発見され、その target cell が好塩基球である事が明らかにされてより、アレルギー反応の場に好塩基球が血管外遊出する可能性が一層強まってきた。そこで第一編では気管支喘息患者の喀痰中に好塩基球が出現する事を新たに観察しえた。また、喀痰中の好塩基球の出現は喘息患者の発生時にのみ認められ、血清 IgE 値、末梢血好塩基球数などと相関し、好酸球とともに喀痰中に遊出してくるものと考えられた。しかし、I 型以外のアレルギー反応においても好塩基球が血管外へ遊出する可能性が強いと考えられた。そこで第二編では Pepys らによりⅢ型アレルギー反応と考えられている遅発型皮膚及び気管支反応について検討を行った。その結果、house dust による遅発型反応は IgE による I 型反応が強く、candida による遅発型反応はⅢ型アレルギーの関与が強いことが示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究は気管支喘息患者の喘息発作と喀痰中の好塩基球との関係を明らかにし、また遅発型反応でも抗原の違いによりアレルギー性組織障害の型が異り得ることを示した価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。